

十和田の火山活動解説資料（平成 26 年 1 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

十和田では、1月27日昼前から夜にかけて地震活動が活発な状況になりました。27日の夜から地震回数は減少し、2月に入ってから概ね静穏な状況となっています。
火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1～2）

十和田湖付近では、27日10時過ぎから中湖付近の深さ4～7kmを震源とする地震が増え始め、地震計で観測される地震回数は、17時～19時頃にかけては1時間あたり100回以上と非常に多い状況となりました。気象庁が震度情報の発表に使用する震度計では、震度1以上を観測する地震はありませんでしたが、地元への聞き取り調査によると、27日昼頃から夜にかけて複数回の体に感じる揺れ（震度3～1相当）があったということです。

27日夜から地震は徐々に減少し、28日に入ってから1時間あたり数回の発生状況となりました。2月に入ってから概ね静穏な状況となっています。

低周波地震、火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果によると、地震増加時及びその前後で十和田付近の地殻変動に変化は認められていません。

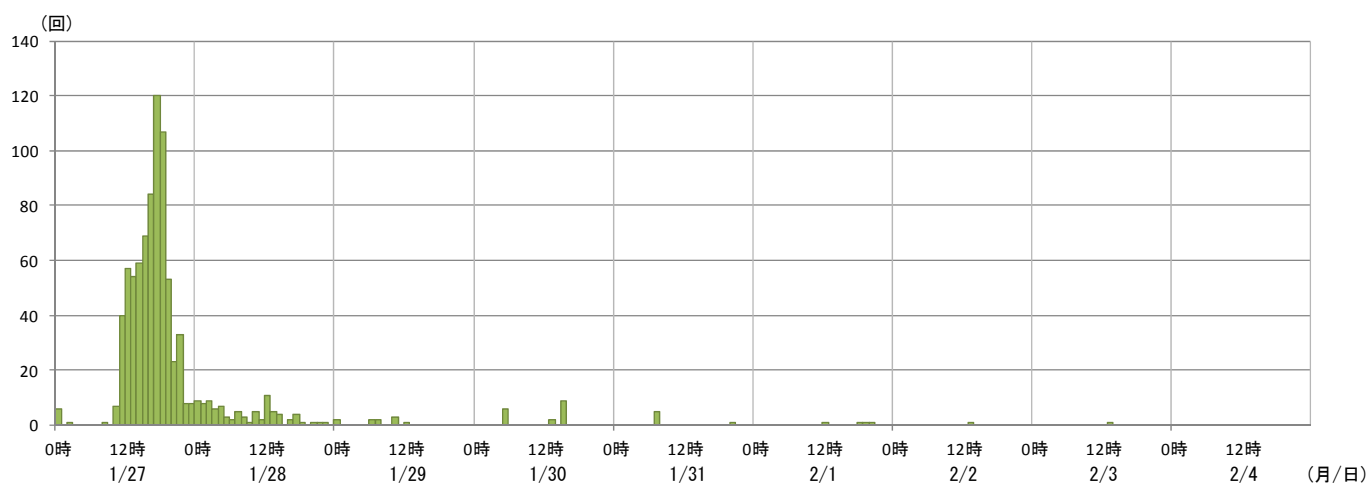


図1 十和田付近を震源とする地震回数（暫定値）

表示期間：2014年1月27日～2月4日

計数基準：H小坂観測点で上下動振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内

・図中の一部のデータは暫定値が含まれますので、後日変更することがあります

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、弘前大学、東北大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

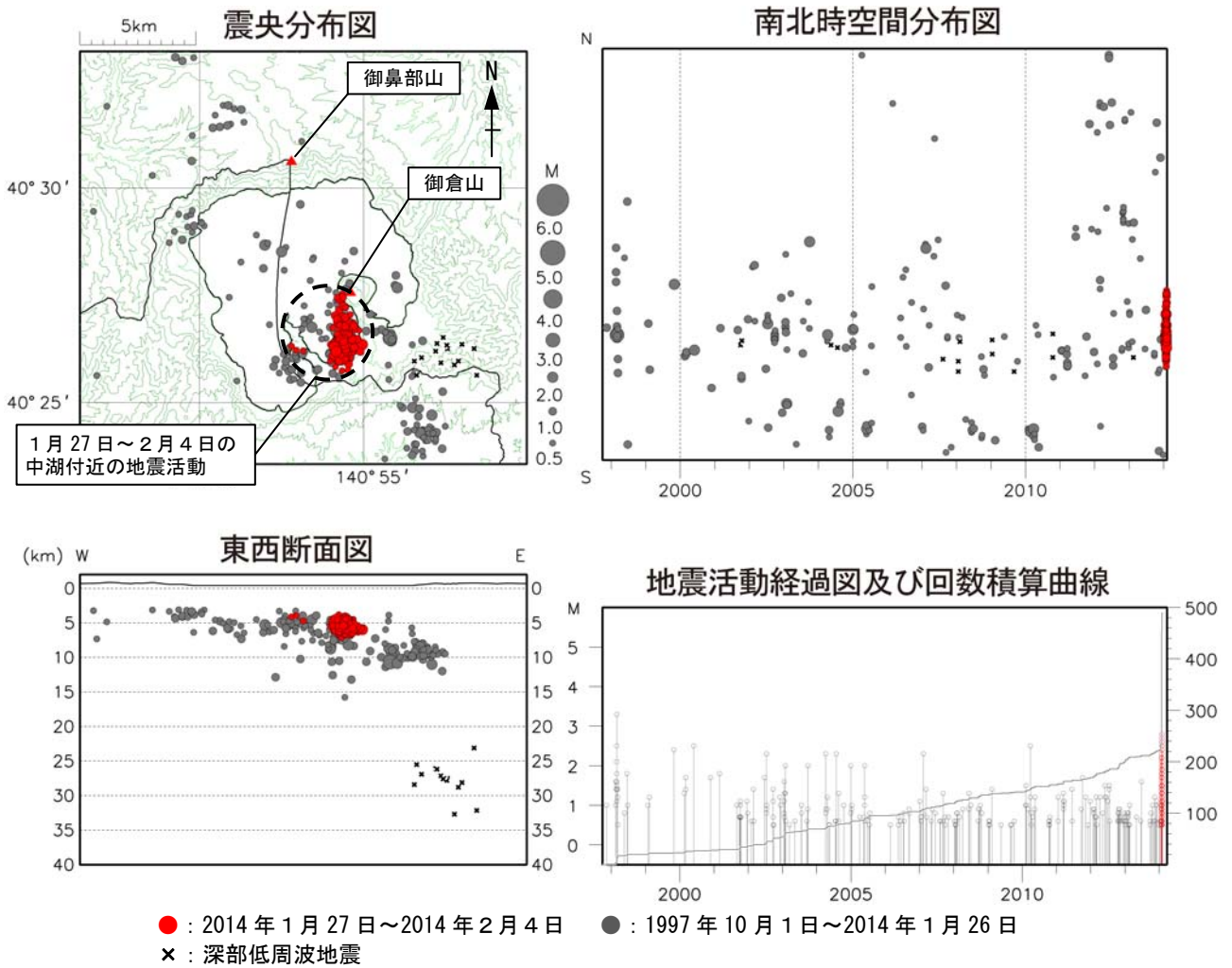


図 2 十和田 広域地震観測網による十和田周辺の地震活動図（1997 年 10 月～2014 年 2 月 4 日）

- ・ 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。
- ・ 低周波地震については、1999 年 9 月から識別して登録を開始しました。
- ・ マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値が含まれますので、後日変更することがあります。

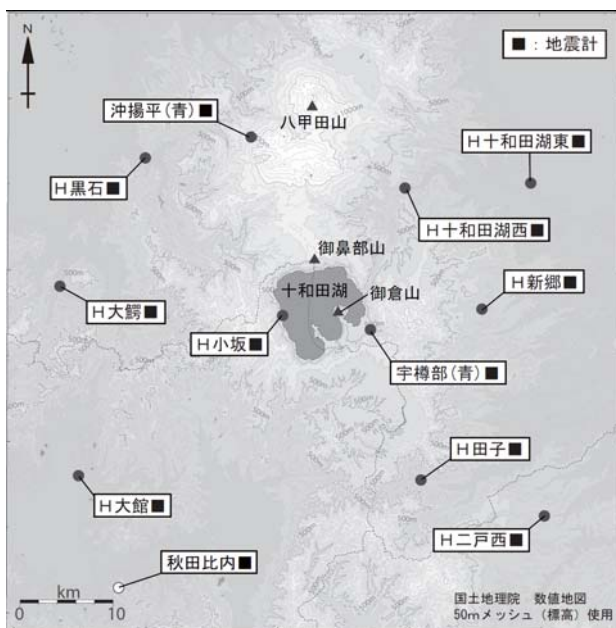


図 3 十和田周辺の地震観測点配置図

- ・ 小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
- ・ H : 独立行政法人防災科学技術研究所、(青) : 青森県